

使上皇忽令着御烏帽子ヲ取テ是ヲセヨトテ給ハリ

ケレハ左府堀川御前ニ候カ傳ヘ給テ自カ烏帽子ヲ

取テ出小木鳥ニ着件御烏帽子ヲトシ房カラコラ

直ニハイカトテ平礼ノ烏帽子ヲ給フ云云 貞丈云堀川殿左大臣

臣ニテ白五ホシヲハ用ヒタマフヘカラス ○ 謗抄云或書曰雖中少將備威儀

日多平礼公保卿少將二十許ニテ常ノ事也其家

老能及四近代其兩人外近將不見及基家又好此

夏 貞丈云中少將ナル人白張エホシヲハ用ヒカラス ○ 百練抄云室治元年五月

九日辛酉日吉五月會也院御脱屣以後今年為神

年刻御車 御車葉 殿上 中 土御門 前内大臣 堀

川大納言 具家直衣 中宮大夫 隆顯布中 土御門中納言顯親

別當 通成美 ○ 貞丈云内大臣大中納言中宮大夫 ○ 山槐記云

三年三月廿四日之条 前駟六人式部大夫三人 光景家倍宗成

治承四年三月条 次移馬舍人四人 藍裏崩亦上下款冬 ○ 貞丈云

直衣ニ侍エホシ用ヘカラス舍人ノ裝束ハ狩衣ナルヘシ狩衣ニ白張

エホシ侍エホシ用ヘカラス此外古記ニ平礼見タリ不違教拳 又

治承二年正月廿三日ノ条ニ 辰刻凌大雪自中山堂參鞍馬寺於美

曾呂坂逢右少將維盛朝臣 折烏帽子着直垂 侍五人騎馬

在前後一人十ヨ人下居ル波太菰堂今曉為狩獵白

標原野 貞丈云少將ナレトモ將ノ為ニ微服潛行セラレシナレハ折

リ平礼ハ平礼トアリ是折エホシト平礼ハ同物ニアラサル一物トスヘカラス ○ 山槐記 治承四年三月四日

隆季朝事
此朝事、イ
カナル名目ヤ
納言ナハ朝
臣ノアマリ
ミアルマシ

今日新院令着初御為帽子給云々無殊後帥大納

言隆季朝事詞進之八角蔣繪管二口一曰ハ平礼一曰ハ立

○貞丈云新院侍エホシ白ハリエホシヲハ着シタマフヘカラス然レ

平礼ハ侍エホシ白張エホシノ一ニアラサル一明シ此文平礼ニ

シテ立エホシト云ヘルヲ考ルニ平礼ト云ハ凡折エホシナル一

知ルヘシ平礼ハ古名ニシテ風折ト云ハ新名ナルヘシ古書ニ風

折ト云名目ナシ皆平礼トアリテ心ヲ付テ古記ヲ見テ考ヘ知

内府記等ニハ風折ノ名目見ヘタリ其比ヨリ云習シタル一欽目

西三条装束抄ニハ平礼ヲ別物ノ如クニ記サレシハ其比風折ノ

名目盛ニ行ハレテ平礼ノ名カクレシニ依テ別物ノ

コトクニ思ヒ誤リテ記シタマヒシナルヘシ

勸抄ニ云為帽子宿老之人薄塗壯年厚塗近

年老少着薄塗不可然夏也古人著薄塗為

帽子臨朝平礼ハ額折様隨人而可有有用音

只以不属目為害也晴時布衣可用平礼云云而

代希也入道相國公經公一門為帽額ニ云云而

先祖阿古九大納言白河院寵愛之間為帽ノ

キヲ取テ常ニ令引寄セ給其濫觴云々資賢ノ

ノ家為帽子後ヲスヘタリ如此家々曲第之只以

不属目之様ヲ偽吉也貞丈云是平礼ノ一ヲ云フナリ期

キル一ヲ云平礼ハ即風折ナリト云一ヲ知ラスシテハ此條
文ハ解ニカタキナリ風折ノ中公經公ノ一門ト資賢ノ家ノ
折ヤウノカハリアルヲ云ナリヒサクハヒシグナリエホシノ先
平ニヒシグナリ白河院ノトナヘテ引寄せタマヒシ時ヒシケタル
ヲ摸スルナリスヘタリトハ居タリト云一ニテエホシノ尻ノ折
ノ下ヘサカリテ折ルヲ云フ歟此文ハ倅平礼ノ折ヤウノ一ヲ云ナ
尋風折ノ折 山科中將亮言郷ノ新井筑後守ニ

折柔シ
類トハ凡
折ノ多ク
ルニシテ
三侍柔
リシハ折
居ニ柔リ
シト宣也

一タマヒシ書ニ云平礼白丁ノ為帽子長ナカク調

ル物ナリ薄塗ト見ヘツリ云貞丈云此答ハ白丁ノ為帽

ナラニ欲平礼ハ上皇モ大中納言以上大臣モ着シクマフ一前ニモ

如シ白丁エホシノ長ク作りタルハ上皇モ大臣大中納言モ用ヒ

マフヘ野宮宰相定基卿ノ新井筑後守ニ答ヘ夕

ヒニ書ニ云平礼ハ折烏帽子ノ類ニ候コレモ頭ヲ

平ラメテ折申候エヘ平礼ノ名ヲ得候歟貞丈云折

ハ侍エホシノ類ト云一歟風折ノルイト云フ一歟頭ヲ取平カミ

折トハ侍エホシノ頭ニハ平ナル所アリ風折ナトハ峯アリテ平ナ

所ナシ然レハ侍エホシノルイト云意ナラニ平礼上皇モ大臣大中

言モ着セラル、物ナレハ侍エホシノルイトハアルヘカラス此答

オホツカナキ答ヘナリ

貞丈按平礼ト云ハ子ヘイレイ又ヘイライトヨムハ誤

平礼ノ名世ニ絶テ唯古記又ハ装束抄ニアルヲ見ルノ

ミニテ人ノ心々ニテヘイレイトヨミ又ハヘイライトヨム

此ヨミヤウ名目抄ニモ見エス何ノ證據モナシ唯文

字ニ付テヨムナリ東鑑ヲ見ルニ將軍ノ行列ノ書

タル條ニ平礼所々ニ見タリ悉ク平礼ニヒレト訓

付タリ東鑑ノ訓点ハ土師玄同カ弟土師聊シボクトカ

所為ナリ羅山文集ヲ見ルニ玄同ハ道春ノ友ニテ

惺窩先生ノ門弟也惺窩ハ冷泉家ノ後流ナリ東鑑ノ訓点間々

誤モアリト云ハ氏平礼ノ二字ヘイレイトヘイライ

トモ訓ヲ不付シテヒレト訓ヲ付シハ奇ナリコレ玄

同聊ト等カ私意ヲ以テ付シニハアルヘカラス是必ス
惺窩先生ニ問テ其教ヲ受テ付シ訓ナルヘシ平礼ニ
レト付シハヒラニレノ字ヲステガナニ付テヒレ
トシタルナリ是惺窩先生其故実ヲ知テ教ヘタ
ヒシナラン古代ノエホシハ剛カラスシテ柔カナリ
其頂ヲ折レハ籐ト成ル風ヲ受レハヒラメク恰モ魚
ノ鱗ヲ動スガ如シ故ニ烏帽子ノ頂ヲ折テ着ルヲヒ
レト名付シナルヘシ カ中モヒラメク物ニヒレト名付ク保保
モヒラメク故ヒレヲ漚シテホロト名付シ
一憶 右ニ云如ク平礼ハ風折ノ一ナリ 別物トシテ
ハ古書ニ一向合ハルナリ 前ニモ云如ク風折ハ中古以来ノ名

安永六年 丁 丙九月 日 伊勢平藏 貞一 考

附録

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

烏帽子子紙
 子付ル紙
 三制作以
 来ハハ往
 古結三作
 リ三時ハ其
 織日級ヨ
 只見三巴
 紙三作ル
 時ハ件縦
 横ノ織目
 ウ三見シ
 カ三見シ
 ウ三見シ
 カ三見シ
 ウ三見シ
 カ三見シ
 ウ三見シ
 カ三見シ
 子下ニ布
 目ヲ漆ニテ
 ナリタル折
 ナリ是古
 遺体ナリ
 證トスベシ

松家傳
 一不倭並一
 覽仕候紙ニ
 テハ無之猶
 好也ナヒラ
 付タルハ思
 伸ノクダ也

一衣服令ノ頭巾ハ羅ト縵トヲ以テ階級ヲ立ラシメ

貞丈云花園左大臣有仁公ノ時ヨリ以前ノ烏帽子
 ハ結ニ漆ヌリテ柔ニ作ルユヘ袋ノ如クサヒモナシ
 眉モナシ有仁公以來ハ紙ヲ以テ作り強ク漆
 リ固メテ本形ヲ以テサヒヲ折出シ眉ヲモ作り
 ル也建保職人哥合烏帽子折ノ歌我宿ノエ
 シノ結ヲイカニセンヌル存スクナキ月ノ比哉是結
リテ作ル 宇治拾遺十一卷ノ七十餘リ計ナル以羽ノ髮友モ
 ケテ白キトテモ乃ロクアル頭フクロノエホシヲ引入テ
 是ヤハラカナル可離ナカ 十訓抄驕更卷ヘタルエホシヲニテエホシ尾
高ク云 是柔ナルエ領世繼花ノアル此比コリサヒエホシ
シキヲメキエホシニナトオリノカカリテ侍ルタル云
此比ハ鳥羽院御代有仁公ノ時ナリ然ルニ往年松平一傳
此時ヨリエホシノサヒハ出素シナリカ古様ノエホシ家ニ傳ヘシ制也トテ一條殿ヘ参ラセ
 ラ新井筑後守カ毛牟リテ摸シ作ラセテ家ニ藏
 シヲ見シニ立エホシヲ紙ニテ薄ク作り柔ニシテ本
 形ニテ折出シタルサヒアリ予ハ紙ニテ作りタルトサ
 ヲ折タルトノニツラ見テ某ノ古様ト云フ一ヲ信
 ス家ニ傳タル一ハ傳タルヲナト傳ヘ違ニハアラサ
 ヤイフカシ

サヒニテ貴
賤ヲロツ
公無之候ヤ
厚クシテ薄ク
カナルトシテ
別也老若ノ
美ハアラシカ
唯リ押サセハ
賤者ノコト
ニテ甘利
ノ藤ナリ計
也貴賤ヲ
カノ美ノ所
見無御座候
ナリ

タリ庶人ノ如キハ平結ヲ用タル歟令ニ見サレトナリ
ハ詳ニ知ルヘカラス建保職人歌合ノ歌ニテ結ニ漆
スルトハ知ラレヌ此比サヒト云物ニナシ紙ニテ固ク
作りシヨリサヒヲ以テ貴賤ノ階級ヲ立ルトニナ
リシ故サヒニ品々ノサヒ出来シナルヘシ

一 烏帽子ノ形ハ只三様ナリ立烏帽子 頂丸シ侍エホシ白
エホシニナ立エホシ

テサヒノ
違アリ引立エホシ 一ノ方ノカ
ドトカ細エホシ 長クシテ上
ノ方ホソシ以上三様ナリ

平礼ハ立エホシヲ折タル也 風折
是也 ○ 清女枕草子ニ長エホ
シト云フモノアリ

一 立エホシト云名ハ平礼 風折
ナリト云夏出来テ折タル形

御説感
得仕候

ト云フナルヘシ是俗稱ナリ立エホシノ亦名ハ平、蕉

帽子ト云ヘシ

一 侍エホシモ風折モ折エホシト云ヘシ侍エホシニ限

リテ折エホシ

侍エホシモ風折モ折エホシト云ヘキニ侍エホシニ限リ

テ折エホシト云トハ風折ハ未タ始サレ以前ヨリ侍

エホシハ折テ着ルトニテアリシ故折エホシト云

ナラニ歟後ニ平礼ハ始リシニ是又ハ折エホシト

云ハ平礼ト云トマタ後ニ風折ト名ヲ替タルナ

ルヘシ

普通云折
エホシト稱
ズトハ風折
ノ一ヲ稱ス
ナリ公家等
ハエホシヲ
折居エホシ
ト仰アル也

平礼ハ立エホシヲ折タル也

當時ノ模様ニテ考候美云様丸之通ニ御坐候

立為帽子 諸眉ニ申古代ノ平礼ヲウレシニテ厚クヌリ

眉ヲ立テ其名ヲ得シコト 右ニ云厚クヌリ

ルニテ

風折 左眉右眉古代ノ平礼ノ風ニ折ラレシ形ヲ

ルニテ強クヌリテリノ名ヲ立タルモノカ所謂

左上ノ右よりナリ

平禮 右言ウスヌリナルヘシ但シ云時ノ平礼ハ

ナシエホシ風折エホシニハヘリアリ

右當時ノ様ニテ古代一物

搦為帽子子引立エホウシ梨子ホ當時ノ稱一物二名歟

折居為帽子俗ニ云侍エホウシナリ右各一物歟

揃サヒ白丁ノモノ、為帽子俗ニハ鍬形ナト云ラセ

此サヒヲ付ルト稱ヲアミテ夫へホツケテ制スル

故ニ此名アルヨシ

細烏帽子之所ハ今少シ古キ證ヲ奉希候

以上ノモノ金盃羅類 紅名ノ在ナリ
是等ノモノハ古キ證ヲ奉希候
是等ノモノハ古キ證ヲ奉希候